

蒲生地区文化協会誌

—事務局—

東近江市蒲生コミュニティセンター内

東近江市市子川原町461-1

電話:0748-55-0207

茜

第50号

令和6年6月発行

発行元:蒲生地区文化協会広報部会

蒲生地区文化協会誌「茜」は創刊号を平成5年11月に発刊して30年、第50号を発刊します。

蒲生地区文化協会 会長 向井 孝



このたび文化協会広報誌「茜」が50号という節目になりました。

創刊号が平成5年に発行されて以来、30年もの歴史があります。

広報誌を振り返ってみますと、当時は蒲生町時代で文化祭の様子は勿論の事、各字(あぎ)の紹介、むかし話等各町内の情報も含めての広報誌との印象を受けました。のちにはクロスワード等、住民の方が興味を持つような内容になっています。

当時の文化祭は、来場者で会場が満員になっている様子が確認でき、改めて感心しました。また、作品の多さも印象に残りました。

平成18年には東近江市に合併となり、『東近江市 蒲生地区文化協会』と名称も変わり現在に至ります。時代の流れとはいえ、クラブ数の減少、そして会員数の減少、さらには会員の方の高齢化等大きな変化が生じていることも事実です。

広報誌50号発刊の節目にあたり、諸先輩方のご苦勞や各地区の皆様による気づかい等に改めて感謝を申し上げます。

文化協会も、公民館活動から、コミュニティセンターでの活動に変わりましたが、諸先輩方の思いを少しでも引き継いでいけるように、今後も努力を続けて行きたいと思っておりますと同時に、各地区の皆様による、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

“緑と安らぎと文化の町 蒲生を”

創刊号 蒲生町文化協会会長 勝永春夫氏の『発刊によせて』より

令和4年度 蒲生地区文化協会 落語会 開催

登壇 桂 三度氏

前座 月亭 秀都氏

令和5年 1月28日(土)

あかね文化ホール 大ホール

桂三度の落語会 ～話と噺～ 笑って健康に過ごしましょう！



令和5年度 蒲生地区文化協会 文化講演会 開催

講師 若宮 正子氏

令和5年 12月2日(土)

あかね文化ホール 大ホール

私は創造的でありたい ～人生に「もう遅い」はない～



茜50号発刊に寄せて



東近江市蒲生支所 令和5年度 支所長 横山 義孝

蒲生地区文化協会広報誌50号発刊 誠に、おめでとうございます

生涯学習とは、教育基本法の中で「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。

世界に目を向けると多くの地域で生涯学習を考える状況にはない紛争や貧困が多発しています。平和な蒲生地域でなければこのような機会を得ることはできません。この幸せをかみしめ、蒲生地域の生活に根ざした文化の創造に、より歩みを進めいただきますようお願いいたします。文化団体での活動が、皆様にとって人生を豊かに生きるためのスパイスとなることを祈念いたします。

蒲生コミュニティセンター 館長 日永 伊久男

蒲生地区文化協会広報誌「茜」50号記念誌発行を祝して

蒲生地区文化協会広報誌「茜」の発行が、50号の記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、貴協会の皆様におかれましては、日頃より地域文化の振興・充実にむけ、多大なるご尽力・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

平成5年に創刊されて以来、これまで積み上げてこられました伝統ある貴協会の活動を記録した会誌「茜」50号の歩みは、蒲生地区の文化・芸術の歴史そのものであるともいえます。今後のさらなる発展に寄与されようと記念誌を企画・刊行されましたことは誠に意義深く、会長はじめ発行に関係されました役員並びに会員皆様のご尽力に敬意を表します。

むすびに、50号の発行を契機といたしまして、貴協会の益々の充実と発展そして会員の皆様のご健勝でのご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。



蒲生地区まちづくり協議会 会長 西村 純次

文化協会広報誌 第50号記念誌に寄せて

貴協会広報誌の第50号発行誠にありがとうございます。

平素は蒲生地区の文化振興に尽力されておられますことに敬意を表します。

まちづくり協議会は蒲生地区内自治会構成員と文化協会ははじめ目的に賛同する地域活動団体を構成員としていますことから、文化協会さんにも大変お世話になっております。貴協会には音楽・書・ダンス・手芸・歴史など20を超えるサークルがありそれぞれが活発に活動されており、地域の生涯学習の要となっていることを大変嬉しく思います。展示会には各サークルから普段の活動の成果を出品され、また文化祭には展示以外にも舞台発表などを実施されておられます。

平成12～13年度 蒲生町文化協会会長 長澤 善三

平成12年に就任させて頂き、今となっては懐かしく当時を思い出しております。

平成3年6月にあかね文化センターがオープンになり文化活動が盛んな時でした。文化協会も各字からの理事さん、各サークルのサークル長さんで（43サークル）構成され、豊かな文化の街、自己研鑽に努め自分を磨くためにも、各字の公民館活動も盛んでした。字で菊を作り、朝顔展、大正琴、銭太鼓、文化祭をされる所が多く、親睦と視野を広げるため活動をされておりました。サークル活動では6月ごろにサークル発表会を計画され実施、隣町へ安土町、竜王町へ出かけておられ、舞台発表を通じて交流を深められておりました。文化祭は11月3日を中心に計画し、各字出展（平面・立体）町づくり、昔話、菊花展に於いても沢山の出展を頂きました。

紆余曲折いろいろなことがありましたが、今日までやってこられたことに感謝しているこの頃です。



当時のお写真



当時のお写真

平成19～22年度 蒲生地区文化協会会長 寺島 春三

蒲生地区文化協会誌50号発行に寄せて

歴史と文化の町「蒲生」そのなかで受けつがれてきました文化協会、朝桜中学校の古い講堂が文化祭の始まりでした。ひと昔前までは、アカネの玄関先の駐車場にテントを幾張りも立てて沢山の菊を展示していました。昔は多くの集落が競い合って菊づくりをされていました。ある年、突然突風が吹いて大切な菊が数鉢倒れたこともありましたが、展示されてある絵画作品が、幾つか落下していたり、開催期間中は何が起るか気が気ではありませんでした。

「来年も舞台上で踊るやろうか？」等ほほ笑ましい会話もありました。今まででのご活躍されました方々も私も含め後期高齢者になり懐かしい思い出となりましたね。

平成23～26年度 蒲生地区文化協会会長 藤林 茂

会報50号発行によせて

私は現会長の前に4年間会長をさせていただいたものでございます。会員の皆さま方には大変お世話になりありがとうございました。心よりお礼申し上げます。当時は何も考えもなくただ事業をこなす毎日でした。

文化祭の時、庁舎の東側にテントを立て、菊花展や寄せ植の講習等数多くの事業でした。あかねの教室を多く使い展示もいたしました。各教室も多くなりカラオケ部も増えました。年始には町内の歌好きを募集しカラオケ歌祭りを立上げ、その出演者にお金を出していただき、そのお金を社会福祉協議会に寄付する方法で取り組んでまいりました。発行50号と聞きなつかしい思いです。

今後ますます続いていきますようお願いしております。



当時のお写真



文化協会の主催行事



会員研修

文化協会のサークル、会員の親睦を深めるため研修会を開催しています

- 平成24年度 愛知川方面
- 平成25年度 琵琶湖博物館
- 平成26年度 安土信長の館
- 平成27年度 南禅寺 嵐山
- 平成28年度 京都二条城
知恩院
- 平成29年度 宇治 平等院
鉄道博物館
- 平成30年度 京都 下鴨神社
植物園
- 令和1年度 信楽方面
- 令和4年度 湖南三山



かまーとの森



湖南三山

文化講演会や公演会の開催

チャリティーカラオケ



出演者から頂きました参加費は東近江市社会福祉協議会へ全額寄付させていただきました。



サークル発表会

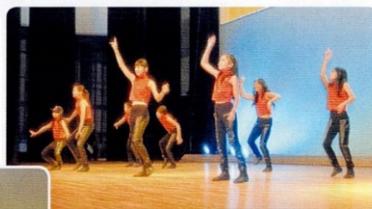
「自分さがし」



東近江市文団連
文化展

東近江市八日市
文化芸術会館にて

芸術文化 のつどい



サークル紹介

あかね大正琴クラブ

色々なジャンルの曲を3~4ヶ月かけて完成させています。少人数ですが、月2回の練習を楽しみに、集まっています。

興味の有る方覗いてみて下さい。
お待ちしております。



カラオケクラブ ドレミ

文化協会の役員に声をかけて立ち上がりました。以後10数年が過ぎて現在に至ります。今になると、声を出すこと、譜面を見ること等、色々と身体にとっては、良い事だらけだと思います。何よりも好きな歌を歌うのは、勿論の事聴くのも楽しんでいますので、これからも歌好きのクラブとして続けて行きたいと思っています。



ナツメロクラブ

懐かしい唱歌や流行した歌謡曲を当時の自分達と重ね合わせて懐かしみ、思い出話に花を咲かせ、素敵な先生の丁寧な指導と生伴奏に合わせて歌っています。

さあ、一緒に楽しく歌ってみ



新曲ヒットソングクラブ

ヒットしている新曲を先生の指導で歌っています。現在のメンバーは女性10名と男性7名。

とっても有意義な時間を送っています。さあ一緒に歌ってみませんか。楽しいですよ。



ハーモニカ笑好吹「あかね」

＃や♭の半音階もレバー操作で演奏出来る『クロマチックハーモニカ』で重謡・歌謡曲・ポピュラー・ジャズ等を楽しく愉快的仲間と練習しています。

気軽に見学に来てください。



コーラスレインボー

1年に3曲ほど練習しています。立つより座って歌っている時間のほうが長いです。

先生は、優しく根気よく指導して下さいます。「歌は元気のもと」です!!



鈴温泉太鼓

和太鼓の演奏が大好きなメンバーが集まり、楽しく活動しております。マックスクラブ「蒲生野太鼓わらべ組」の指導を行いながら、自分達の曲も練習しております。

依頼があれば、地域のイベントで演奏させていただいております。見学は、ご自由どうぞ。



あかね金管アンサンブル

金管楽器だけでアンサンブル合奏を楽しんでいます。演奏曲はポップスから吹奏楽オリジナルまでトランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバなどで演奏しています。

家に楽器が眠ってる方一緒に演奏しませんか!



三曲会

箏、三味線、尺八を愛好する者が集まり、日本楽器の素晴らしい音色と奥の深さを感じながら稽古を重ね、小中学校の音楽授業や文化祭、敬老会等で演奏活動を行っています。



錦城会 蒲生詩吟クラブ

尺八、お琴の伴奏に合わせ漢詩や詩歌に託された心を伝え朗々と吟じてみませんか。

趣味として老後の楽しみ、余暇を見つけたら気軽に教場を覗いてください。



ハウオリ・フラダンス・マハロ 蒲生教室

皆で仲良く、日本の曲やハワイアン等を楽しく踊っています。

又、依頼があれば、施設や地域のイベント等にも参加しています。



ハウオリ・フラダンス・マハロ アカネ教室

ハワイアンや日本の曲等を楽しんで踊っていますが、竹で作ったパイリという楽器、瓢箪で作ったイフという楽器、又、石を使って踊る曲等も楽しく踊っています。



サークル紹介

蒲生町地域史研究会

蒲生町地域史研究会は1980年（昭和55年）4月に、会の発足の呼びかけと会員募集を記したカリ版刷りのピラを新聞の折込みに入れたところからスタートした。当会は数名の会員で続いてきたため、日常的に十分な活動ができていないこともあり、文化祭のテーマに苦勞しているのが正直なところであるが、何を取り上げても調べ始めると面白いことがわかり、それぞれに学びの楽しさを感じている。



朗読サークル ひだまりの会

プロのアナウンサーの先生から発音や基本的な発声を学びながら、詩や絵本、エッセイなど『心に響く朗読』をめざし奮闘しています。朗読は、男女、年齢を問わずだれでも気軽に挑戦することができ、また声を出すことは、健康にとってもいいとされています。私たちは、朗読を通して自分たちも健康に、また地域にもその楽しさを広げていきたいと日々練習しています。教室には、男性も女性も、年齢も様々なメンバーで毎回楽しく練習しています。ぜひ気楽に教室をのぞいてください。



楽翔会

書道雑誌『書明』で楽しく書いています。

令和2年、コミュニティセンター利用登録団体であった蒲生書道サークルが『楽翔会』に名称変更し文化協会に加盟しました。



あかね陶芸クラブ

自分たちの思いの作品を作り先輩たちが築いてきた陶芸クラブを今私たちはその思いを繋げています。

マックス陶芸クラブの子どもたちのお手伝い（指導）もしながら、子どもさんの元気をもらいつつ、世界で一つの作品を作って楽しく活動しています。

皆さまの参加もお待ちしております。



趣味の会

冬は盆梅、春は石楠花、夏は朝顔とコミュニティセンターの協力をいただき活動しています。

秋には伝統のある大菊作り頑張っています。



さわやかニット

笑い声の絶えない教室の中で、1本の糸から、色々なオリジナルニットを編み、出来上がる喜び着る喜びを感じながら、楽しんでいます。

中西先生が、優しく、丁寧に教えて下さいます。



あかね押し花クラブ

お花の大好きな仲間が集まっています。

四季折々の草花や野菜を押し花にしています。

自然の恵みに感謝し、自然の美しさを大切に作品制作しています。



あかねフラワーアレンジメントクラブ

お花のある生活を始めませんか？

お花に親しみ、フラワーアレンジメントの楽しさを知っていただくためのサークルです。

どなたでも、いつからでもご参加いただけます。



Q. ①洗②拭③拭④拭⑤拭⑥拭⑦拭⑧拭⑨拭⑩拭⑪拭⑫拭⑬拭⑭拭⑮拭⑯拭⑰拭⑱拭⑲拭⑳拭㉑拭㉒拭㉓拭㉔拭㉕拭㉖拭㉗拭㉘拭㉙拭㉚拭㉛拭㉜拭㉝拭㉞拭㉟拭㊱拭㊲拭㊳拭㊴拭㊵拭㊶拭㊷拭㊸拭㊹拭㊺拭㊻拭㊼拭㊽拭㊾拭㊿拭
 海洗浴浴注泡潤沐治
 会信洗泉放減% 潤掬劉高摸瀟沫油泥永

日本よし笛の会東近江支部「あかね」

この度3月末付けをもって蒲生地区文化協会を脱退致しました。

結成から17年、老人会・サロン・納涼祭等の地域の行事、病院への慰問、舞台演奏会、ロビーコンサート、他の支部・教室との交流会等、積極的に活動してまいりました。

4月からは、月1回の先生の講座と日本よし笛の会「あかね」グループとして練習に励んでいます。ボランティア活動は続けていきますので、気軽にお声かけ下さい。

令和6年度 新規サークル募集中！

蒲生地区文化協会では、ただいま令和6年度の新規加入サークルを募集しています。

蒲生地区を拠点に活動している文化団体であれば、ジャンルは問いません。

加入いただきますと東近江市文化団体連合会の一員として登録され、東近江市内の社会教育施設などで使用料の減免が受けられます。

詳しくは、事務局までお尋ねください。

※ 東近江市では、公共施設予約システムで各施設の予約が可能です。是非、ご利用下さい。

会員募集中

各クラブでは新規会員を募集しております。見学も大歓迎です。

詳しくは、各団体または、事務局までお問い合わせください。

事務局

蒲生コミュニティセンター内

☎0748-55-0207

広報誌「茜」の変遷

蒲生地区文化協会誌「茜」は創刊号を平成5年11月に発行して30年、第50号を発行します。この30年の中にはいろいろなことがありました。蒲生町から東近江市蒲生地区へ。平成から令和へ。時代は変わっても蒲生地区文化協会は活動を途絶えさすこともなく、広報誌「茜」も、今年第50号を発行することとなりました。

ここでは、広報誌「茜」のこの30年間の変遷を表紙で振り返ってみましょう。

| | | | | |
|--|---|---|--|--|
|  <p>創刊号(平成5年11月)</p> <p>「緑と安らぎと文化の町 蒲生を」初代文化協会会長、勝永春夫氏のスローガンとともに広報誌「茜」が発刊されました。</p> |  <p>第10号(平成10年7月)</p> <p>飛行機を飛ばそう大会が蒲生町体育館で開催される。短歌のコーナーやクラブ活動の紹介。</p> |  <p>第16号(平成13年2月)</p> <p>B4サイズで発行。写真でつづる文化サークル発表会を特集。安土町や竜王町からも参加。</p> |  <p>第20号(平成14年7月)</p> <p>文化協会会長に田中博氏が就任。</p> |  <p>第30号(平成17年8月)</p> <p>蒲生町として最後の広報誌「茜」。</p> |
|--|---|---|--|--|

| | | | | |
|---|---|--|---|---|
|  <p>第32号(平成18年9月)</p> <p>蒲生町が東近江市に編入され、蒲生地区となりました。</p> |  <p>第34号(平成20年2月)</p> <p>この号だけ表紙デザインを刷新。文化協会会長に寺島春三氏が就任。文化祭を中心に掲載。</p> |  <p>第35号(平成21年1月)</p> <p>表紙はふたば保育園の鼓笛隊が掲載されました。</p> |  <p>第38号(平成24年1月)</p> <p>蒲生公民館が蒲生コミュニティセンターへ名称変更となりました。</p> |  <p>第40号(平成26年1月)</p> <p>この年より紙面がカラー印刷になりました。紙面は文化祭中心に掲載されていました。</p> |
|---|---|--|---|---|

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
|  <p>第45号(平成31年1月)</p> <p>平成から令和八年号が変わりました。</p> |  <p>第46号(令和2年1月)</p> <p>年号が令和になって初めての蒲生地区文化祭開催。</p> |  <p>第47号(令和3年2月)</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大で蒲生地区文化祭が中止に。</p> |  <p>第48号(令和4年3月)</p> <p>コロナに負けるな！蒲生地区文化祭は展示のみ開催。</p> |  <p>第49号(令和5年3月)</p> <p>蒲生地区文化祭が3年ぶりに舞台と展示の両方が開催されました。</p> |
|---|--|--|--|---|

令和5年度 蒲生地区文化祭
 3年ぶりに 舞台&展示 開催される
 令和5年11月4日(金)~6日(日)

文化協会も協賛しました

舞台発表



カラオケ歌まつり



園・学校作品



作品展示



体験教室



抽選会



文化協会 歴代会長一覧

| 年 度 | 発刊号数 | 氏 名 | ｸﾗﾌﾞ 数 | トピック |
|---------|---------|-------|--------|--|
| 平成4年度以前 | - | - | - | 古き時代を知る方に確認しても詳細が確定できず過去の情報は記載しない方向で断念しました |
| 平成5年度 | 創刊号 | 勝永 春夫 | 20 | 発行によせて『町長』『教育長』よりコメントを頂く園と学校の個人作品に対して表彰を行う |
| 平成6年度 | 2号～3号 | 勝永 春夫 | 20 | 事業報告・決算報告の紹介・シリーズ①わが字自慢が始まるクロスワードパズルが始まる・蒲生の昔ばなしを紹介 |
| 平成7年度 | 4号～5号 | 勝永 春夫 | 20 | 文化祭展示・舞台発表の写真を紹介 蒲生町文化協会のシンボルマークが決まる |
| 平成8年度 | 6号～7号 | 勝永 春夫 | 26 | 文化サークル発表会が開催される 各字出品展の表彰を行う |
| 平成9年度 | 8号～9号 | 勝永 春夫 | 26 | 第1回「ひこうきを飛ばそう大会」の結果報告 出品者からのコメントを紹介 |
| 平成10年度 | 10号～11号 | 勝永 春夫 | 31 | 新規加入クラブ5団体の紹介 体験教室の紹介 |
| 平成11年度 | 12号～13号 | 勝永 春夫 | 41 | 新規加入クラブ10団体の紹介 文化祭実行委員より一言(蒲生町子ども会 指導者連絡協議会の代表) |
| 平成12年度 | 14号～16号 | 長澤 善三 | 41 | 竜王町との文化協会交流会を実施 町制45周年の巨大紙風船を掲載 |
| 平成13年度 | 17号～19号 | 長澤 善三 | 41 | 地域のお祭りの様子が表紙に 文化協会交流事業として「五個荘町の和太鼓チーム」を文化サークル発表会に招待 |
| 平成14年度 | 20号～22号 | 田中 博 | 41 | 文化サークル発表会にて「三曲会」+「池坊生花クラブ」が初ジョイント 文化祭の「蒲生幼稚園教員の特別出演」と「オープニングゲスト」が表紙を飾る |
| 平成15年度 | 23号～25号 | 田中 博 | 41 | 文化サークル発表会にて「裏千家茶道クラブ」が三曲会による箏の調べでお点前を披露 東近江消防音楽隊が文化祭のオープニングを飾る |
| 平成16年度 | 26号～28号 | 田中 博 | 39 | 「文化財シリーズ」として表紙に掲載される 文化祭の展示で「町制50周年 記念展示」が行われた |
| 平成17年度 | 29号～31号 | 田中 博 | 41 | 文化サークル発表会で「太極拳教室」が初めて発表された 文化祭実行委員会への繰り出し実績が約200万円との報告あり |
| 平成18年度 | 32号～33号 | 田中 博 | 37 | 東近江市と合併して「蒲生地区文化協会」となる 東近江市文化団体連合会の一員として「新しい文化協会へ」の宣言 |
| 平成19年度 | 34号 | 寺島 春三 | 36 | 東近江市文化団体連合会主催の「東近江市文化団体連合文化展」に参加 会員研修参加への呼びかけを掲載 |
| 平成20年度 | 35号 | 寺島 春三 | 34 | 文化祭中心の内容となる 「あかね陶芸同好会」の作品が「東近江市芸術文化祭 第1回実行委員長賞」を受賞 |
| 平成21年度 | 36号 | 寺島 春三 | 36 | 各自治会の取り組みの紹介と文化サークル発表会の様子 新型インフルエンザのため文化祭開催が見送られた |
| 平成22年度 | 37号 | 寺島 春三 | 36 | 蒲生北小太鼓が表紙を飾る 「わりばしすだれ」が東近江市芸術文化祭の実行委員長賞に輝いた |
| 平成23年度 | 38号 | 藤林 茂 | 34 | 「デイサービス七彩」の作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 韓国・場岩面の使節団が来場され「文化交流レセプション」が行われた |
| 平成24年度 | 39号 | 藤林 茂 | 33 | 「デイサービスセンターあい」の作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 文化祭への菊の出展が多かったとのコメントあり |
| 平成25年度 | 40号 | 藤林 茂 | 32 | この年よりカラー印刷になる(体験教室12教室を掲載) 「デイサービスセンターあい」の作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」連続受賞 |
| 平成26年度 | 41号 | 藤林 茂 | 29 | 自治会菊花展5地区が出展された 蒲生地区の個人作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 |
| 平成27年度 | 42号 | 向井 孝 | 28 | 文化祭の報告が中心 蒲生地区の個人作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 |
| 平成28年度 | 43号 | 向井 孝 | 25 | ハーモニカ笑好吹「あかね」の皆様が表紙を飾る 「宮井町趣味の会」の作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 |
| 平成29年度 | 44号 | 向井 孝 | 23 | 「ゆりがこネット石塔デイサービスセンター」の作品が「東近江市芸術文化祭 実行委員長賞 金賞」を受賞 初めて体験教室(お茶席「裏千家」)が表紙を飾る |
| 平成30年度 | 45号 | 向井 孝 | 23 | 文化祭の報告が中心 文化協会の事業について掲載(芸術文化の集い・市民ふれあいチャリティーカラオケ等) |
| 令和元年度 | 46号 | 向井 孝 | 24 | 文化祭の報告が中心 文化協会の事業について掲載(自分さがし・市民ふれあいチャリティーカラオケ等) |
| 令和2年度 | 47号 | 向井 孝 | 23 | 新型コロナウイルスの影響で文化祭が中止となった年 個別展示・東近江文化団体連合会の文化展の情報 |
| 令和3年度 | 48号 | 向井 孝 | 24 | 新型コロナウイルスの影響で展示のみの文化祭が開催された年 東近江文化団体連合会の会員研修に関する報告 |
| 令和4年度 | 49号 | 向井 孝 | 22 | 文化協会の事業「自分さがし・会員研修・講演会(落語会)」の開催 新型コロナウイルス影響を配慮しながら開催された文化祭の内容を掲載 |
| 令和5年度 | 50号 | 向井 孝 | 20 | 広報誌「茜」が第50号で記念誌となる 過去にさかのぼり再編成したため、遅れての発行となった |

<< 編集後記 >>

茜50号発行に際し、誠に喜ばしく、皆様に感謝を申し上げます。

さて、蒲生地区文化協会は平成5年以前に創立されており、蒲生町から東近江市蒲生地区となり、平成から令和へと時代の変化とともに、たくさんの人に助けられ蒲生の『文化の炎』を絶やすことなく続けてこられました。

そして、晴れて今日、創刊50号を迎えられることが出来ました。

これは歴代の文化協会会長や蒲生コミュニティセンター館長、各サークルの皆さんの熱意の賜物であると考えます。

蒲生地区文化協会のメンバーを代表して、そのご苦労に対し、敬意を表するものであります。

この先も100号に向けて発行が継続され、蒲生を文化の町として飛躍することを願います。